

キーワードを入力

ニュース検索

検索オプション

ニュース

トピックス

写真

動画

地域

雑誌

ブログ/意見

リサーチ

ランキング

主要 | 速報 | 国内 | 海外 | 経済 | エンターテインメント | **スポーツ** | テクノロジー | ニュース提供社 |

スポーツ

スポーツ総合

野球

サッカー

モータースポーツ

競馬

ゴルフ

格闘技

【町工場から五輪へ】ボブスレーのナット メダル取り緩みなし

2月8日15時37分配信 [産経新聞](#)



拡大写真

ハードロックナットで固定したランナーを手に「金メダルを」と語る若林社長＝大阪府東大阪市(渡部圭介撮影)(写真:産経新聞)

「絶対に緩まないナットがある」。昨年8月、こんなうわさを耳にしたボブスレー日本代表チームの石井和男監督は大阪府東大阪市のねじメーカー「ハードロック工業」に電話を入れた。競技に使うそりのシャーシ部分と、氷面と接する4枚のランナーと呼ばれる部分をつなぐボルトの固定に、同社の「ハードロックナット」が使えるか、という依頼だった。

[\[フォト\]日本、ボブスレー2人乗りで男女が出場枠獲得](#)

選手の強化とともにその改良を重ねていた石井監督を悩ませていたのはナットの緩み。ランナーはガチッと固定せず1～2ミリ程度左右上下に動くように装着される。この「遊び」がコース上の細かい凸凹で生じる衝撃を吸収、ランナーと氷面を密着させて速さを生み出す。ところが遊びがあることで、ナットは激しい衝撃にさらされるため約1分の滑走の間でも緩んでしまう。遊びの幅が大きくなり過ぎると、その進行方向がぶれてスピードをロスする。100分の1秒を争う「氷上のF1」にとっては、わずかなナットの緩みも致命傷だ。同社にとってスポーツ分野を手がけるのは初めてだったが、若林克彦社長は石井監督に「うまくいきますよ」と即答した。

ハードロックナットは2つ一組。片方のナットの突起がもう一方のナットとボルトの間に入り込みきつく締め上げる。若林社長が神社の鳥居に使われていたくさびを見て思いついたという特許商品。若林社長は「昭和49年の製造開始以来、緩んだという話は聞いたことがない」と胸をはる。鉄道のレール固定や宇宙ロケットの発射台にも使われる信頼性を誇るだけに、同社は難なく氷の凹凸の衝撃をクリア。依頼後1カ月で専用ナットを完成させた。日本代表チームはその後の練習でベストタイムを1秒以上更新させたという。

体重や体格が物を言い、欧米勢の独壇場となっているボブスレーの世界に、大阪の中小企業の発明力を武器に挑む日本代表。「金メダル、狙ってください」と石井監督にエールを送ったという若林社長は「世界を驚かせて、他の国からうらやましがられてくれれば」と話した。